

都市再生整備計画 事後評価シート

中野地区

平成24年3月

長野県中野市

様式2-1 評価結果のまとめ

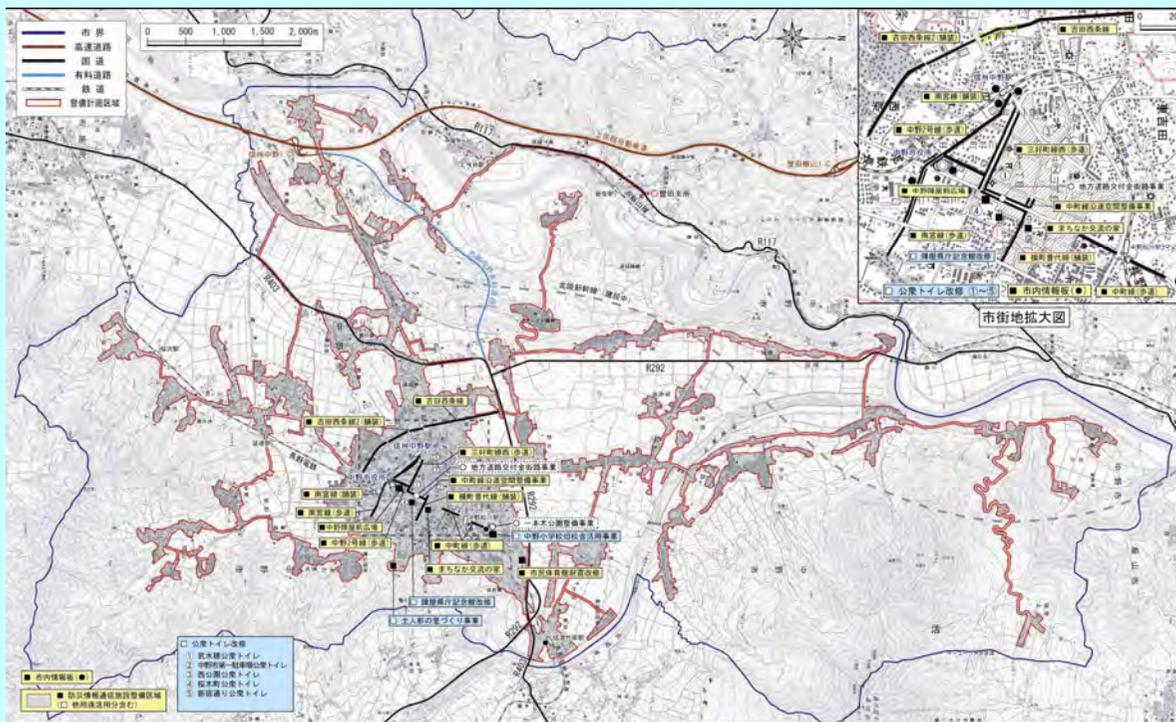
都道府県名	長野県		市町村名	中野市		地区名	中野地区			面積	998ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	3,186百万円	国費率	0.413			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路 ・吉田西条線、横町普代線、南宮線、吉田西条線2、南宮線(歩道)、三好町線西(歩道)、中野2号線(歩道) 地域生活基盤施設 ・防災情報通信施設他2事業(情報通信網整備、市内案内板設置、市民体育館耐震化) 高質空間形成施設 ・中町線沿道空間整備 既存建造物活用事業 ・まちなか交流の家									
		提案事業	地域創造支援事業 ・防災情報基盤整備事業、旧中野小学校西舎活用事業、中野・陣屋県庁記念館改修、公衆トイレ改修事業、土人形の里づくり事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路 ・中野5号線(歩道)	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	高次都市施設 ・文化会館	中野5号線(歩道):北信総合病院の改築計画があり、調整のため中止した			文化会館:事業は中止したが既存の市民会館の利用者数が増加傾向にあるため、指標1の数値目標は据え置く					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路 ・中町線	中町線(歩道):歩道整備を行うことで中野小学校や公園施設及び体育施設周辺の安全な移動空間確保や人にやさしい街づくりが進むため			中町線(歩道):一部の指標に関係するが、数値目標は据え置く					
		提案事業	地域生活基盤施設 ・中野陣屋前広場	中野陣屋前広場:中心市街地にある大型小売店の跡地を買い取り、市民が主催し、運営する多様なイベントを開催できる広場として整備する。人々が交流する拠点を創出しまちの賑わいにつなげる。			中野陣屋前広場:中心市街地に人々が集い交流するための拠点の創出につながるが、指標1の数値目標は据え置く					
交付期間の変更	当初変更	平成19年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	中心市街地歩行者減少率	%	4.2	H18	2.0	H23	7.3	×	あり	買い物客は郊外の大型店舗に集客され、また、高校の統廃合により生徒が減少した、などの原因により中心市街地の歩行者数の減少に歯止めがかからなかった。しかしながら、中町線沿道空間整備、歩道整備、中野陣屋前広場の整備等により中心市街地の魅力や機能は充実した。とりわけ、歩道整備については段差解消や幅員の拡幅により安全・安心な歩道が実現した。	平成24年10月
	指標2	放送による市情報の認知率	%	41.7	H17	60.0	H22	54.0	△	あり	目標をわずかに達成しなかったが、音声告知放送の加入率は整備前と比較し2倍以上に増加しており、防災・防犯情報の連絡体制が充実した。また、屋外放送のみならず音声告知放送の加入世帯は屋内でも放送が聴けるようになり、放送の質が向上した。	—
	指標3	市街地通過交通通過時間	分	10.5	H18	9.0	H23	9.0	○	あり	市街地をはさむ2地点間の通過時間を短縮するための環状道路(吉田西条線、吉田西条線2)は地元住民との懇談会や意見交換会を実施したことにより計画通り完成に至った。これにより交通環境のよい市街地が実現された。	平成24年6月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	中心市街地の通行量	台	36,607	H18					環状道路(吉田西条線、吉田西条線2)の完成により中心市街地の通過交通を環状道路に誘導することができる。これにより中心市街地の交通量が減少し交通渋滞の緩和や交通安全上の問題を改善する。とりわけ、中心市街地は小中学生や高校生の通学路であり、また、商店街でもあるため効果は大きい。	平成24年10月	
	その他の数値指標2	中心市街地におけるイベント数	回	6	H18			10		地方道路交付金街路事業、中町線沿道空間整備事業及び中野陣屋前広場の整備等の実施により中心市街地に人々が集い交流するための拠点が創出され、中心市街地で行われるイベントが4つ増加し、これにより中心市街地の魅力や賑わい向上につながった。	平成24年4月	
	その他の数値指標3	音声告知放送の加入世帯数	戸	4,697	H18			9,751		情報通信網整備が完了したこと、また、各世帯への引き込み線工事についても市が負担した(H19～H20)ことにより音声告知放送の加入世帯が本事業実施前の2倍以上となっており、さらに加入世帯は増加している。これにより、安全・安心のまちづくりの体制が促進された。	平成24年4月	
4)定性的な効果発現状況	歩道整備、中町線沿道空間整備、中野陣屋前広場の整備や公衆トイレ改修事業等が実施された結果、市民祭等の各種イベント時に中心市街地に人々が集い交流するためのより良い拠点が創出され、イベント参加者から高い評価を得た。また、イベントへの参加者も大幅に増加した。歩道整備については、段差解消を図った結果、車イスや杖を使って歩行する方、高齢者等にとってやさしい歩道が実現した。特に障害者団体から高い評価を得ることができた。商店会や地域のボランティア団体による景観向上意識が高まり街を華やかにし、にぎわいのあるまちづくりにつなげて行きたいという想いでイベント毎のデザインシールを光灯に貼ったり、市民祭時に灯籠を設置したり、鉢植えの設置や花植え、バラ等の植樹をしたりと活動が継続実施されている。音声告知放送には受信者を限定して放送する機能としてグループ放送があります。この機能により今までできなかった、区、学校、農協等の単位ごとに必要な情報をきめ細やかに提供ができるようになり、発信者、受信者双方の利便性が向上したと評価された。また、屋外放送のみならず音声告知放送の加入世帯は屋内でも放送が聴けるようになった。放送の質が向上したという評価を得た。本交付金事業で整備された環状道路(吉田西条線、吉田西条線2)の利用者が増えることで、小中学校の通学路にある大型交差点(江部交差点)の交通量が減少することになる。これは渋滞緩和や歩行者の安全性が向上するといった効果がある。											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	中野中心商店街通行量調査報告書によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた				● モニタリング同様毎年年度の中野中心商店街通行量調査報告書により確認する。					
	住民参加プロセス	・中野陣屋前広場活用検討委員会の実施 ・市道吉田西条線整備促進懇談会等の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				● 今後も地域住民と協力してまちづくりを進め、事業のスムーズな実施を図る。					
持続的なまちづくり体制の構築	商店会や市民ボランティアによる景観向上活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた				● 団体やボランティアの主体的な活動にまかせ、市は後方支援に徹する。						

様式2-2 地区の概要

中野地区(長野県中野市) 都市再生整備計画の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:北信州の中心都市として、にぎわいと誇りにあふれる都市の再生 目標1:中心市街地の魅力を高め、人々が集い交流し、にぎわいあふれるまちをつくる。 目標2:防災・防犯対策を高めるとともに、高齢者等の生活にやさしい安全・安心なまちをつくる。 目標3:交通環境の良い中心市街地のまちをつくる。	中心市街地歩行者減少率	%	4.2	H18	2.0	H23	7.3	H23
	放送による市情報の認知率	%	41.7	H17	60.0	H22	54.0	H22
	市街地通過交通通過時間	分	10.5	H18	9.0	H23	9.0	H23
	中心市街地の通行量	台	36,607	H18	---	---	35,437	H23
	中心市街地におけるイベント数	回	6	H18	---	---	10	H23
	音声告知放送の加入世帯数	戸	4,697	H18	---	---	9,751	H23



中町線沿道空間整備事業



三好町線西(歩道整備)事業



中野陣屋前広場整備事業



中町線(歩道整備)事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 中町線沿道空間整備や中野陣屋前広場の整備等により人々が集い交流するための拠点の創出ができた。また、既存施設の利活用により「まちなか交流の家」が整備された。このような事業実施の効果により中心市街地で行われるイベント数の増加へとつながった。 情報通信網整備が完了した。これに伴い音声告知放送の加入世帯が整備前と比較し2倍以上となった。防災・防犯情報の連絡体制の充実が図られた。 中野市民体育館の耐震改修が実施され災害時の避難施設としての機能が強化された。 南宮線、三好町線西、中野2号線、中町線の歩道整備が実施された。これにより子ども、高齢者、障がいのある方々にも、歩きやすいやさしい歩道づくりが促進された。 吉田西条線、吉田西条線2が整備され中心市街地をはさむ2地点間の通過時間の短縮が図られた。これにより中心市街地の通過交通を環状線へ誘導することができた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の賑わいを取り戻すための基盤整備(ハード)は進展したので、今後は活用事業(ソフト)の継続及び創意工夫により歩行者数の減少を抑えたい。 音声告知放送の加入世帯数は情報通信網整備により飛躍的に増加した。しかし、音声告知放送の認知度については目標をわずかながら達成できなかった。音声告知放送の認知度を向上させる必要がある。 市民体育館以外で老朽化した公共施設についても同様に耐震改修または耐震化を実施し、災害時の避難施設の強化を図る必要がある。 歩道の段差解消や歩道整備を実施し、子ども、高齢者、障がいのある方々にも、歩きやすいやさしい歩道づくりをさらに推進し、安全・安心なまちづくりを図る。 災害時の避難施設へのアクセス性の向上を図るために歩道整備や道路整備が必要である。 幹線道路の整備は進んだが、住宅地から幹線道路へのアクセス道路の整備を進める必要がある。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	吉田西条線	1,156	道路改良 L=1,000m	1,687	道路改良 L=1,100m	既設道路の接続部に右折車線を設置したことによる事業量の増加及びコスト増大による事業費増	影響なし		●
	横町普代線	2	道路舗装 L=310m	23	道路舗装 L=310m	コスト増大による事業費増	影響なし	●	
	南宮線	40	道路舗装 L=940m	42	道路舗装 L=880m	県道との道路管理区域の確認により事業量が縮減したが、コスト増大による事業費増	影響なし	●	
	吉田西条線2	5	道路舗装 L=1,210m	62	道路舗装 L=1,210m	コスト増大による事業費増	影響なし		●
	南宮線(歩道)	50	歩道整備 L=330m片	56	歩道整備 L=610m片	平成21年に計画変更し事業量を増加及びコスト増大による事業費増	影響なし	●	
	三好町線西(歩道)	11	歩道整備 L=420m両	7	歩道整備 L=490m両	交差点部分を含んだ整備延長に変更したことにより事業量を増大したが、コスト縮減による事業費減	影響なし	●	
	中野5号線(歩道)	6	歩道整備 L=250m片	—	—	検討中である北信総合病院の改築計画との調整のため中止	指標1に関連するが、数値目標は据え置く	—	—
	中野2号線(歩道)	4	歩道整備 L=250m片	7	歩道整備 L=260m両	市役所庁舎及び文化会館の整備計画が検討中のため箇所変更し事業量及び事業費を変更	影響なし	●	
	中町線(歩道)	—	—	72	歩道整備 L=910m片	平成22年に計画変更し追加 中野小学校、公園施設及び体育施設周辺の歩道整備の促進のため	本事業を追加することにより課題となっていた安全な生活を支える歩道整備が進むが、指標1の数値目標は据え置く		●
地域生活基盤施設	防災情報通信施設他3事業	98	市内情報板設置 7基 情報通信網整備 998ha 市民体育館耐震化 SRC2階建 延床3,037㎡	976	市内情報板設置 7基 情報通信網整備 998ha 市民体育館耐震化 SRC2階建 延床3,037㎡ 中野陣屋前広場整備 2,263㎡	情報通信網:コスト縮減による事業費減(830→770) 市民体育館:耐震補強を基礎部の全面改修から屋根及び壁プレースの補強等の部分改修に変更したため事業費減(150→36) 陣屋前広場:平成22年に計画変更して追加(0→169)中心市街地にある大型小売店の跡地を買い取り、市民が主催し、運営する多様なイベントを開催できる広場として整備する。人々が交流する拠点を創出しまちの賑わいにつなげる。	陣屋前広場整備を行うことで中心市街地に人々が集い交流するための拠点の創出につながるが、指標1の数値目標は据え置く		●
高質空間形成施設	中町線沿道空間整備	96	歩道舗装グレードアップ せせらぎ設置 L=200m 街灯、光灯、 ポーチライト	32	街灯1基 光灯4基 足元灯29基	経済情勢の悪化により地元負担金の徴収が困難となり事業内容を削減し事業費減	影響なし	●	
高次都市施設	文化会館	2,100	7,000㎡	—	—	市役所庁舎の耐震不足が判明し庁舎のあり方について検討すべき状況になったこと、また経済情勢の悪化により財政の先行きに不透明感がでたこと、により事業中止	事業は中止したが既存の市民会館の利用者数が増加傾向にあるため、指標1の数値目標は据え置く	—	—
既存建造物活用事業	まちなか交流の家	7	418㎡	15	418㎡	コスト増大による事業費増	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	防災情報基盤整備事業	92	998ha	85	998ha	コスト縮減による事業費減	影響なし	●	
	旧中野小学校西舎活用事業	47	532㎡	17	533㎡	休憩及び飲食施設の増築について 市民の同意が得られず事業中止 耐震化等の改築のみとした	影響なし	●	
	中野陣屋・県庁記念館改修	10	994㎡	10	994㎡	なし	—	●	
	公衆トイレ改修事業	30	7ヶ所	24	5ヶ所	平成20・21年に計画変更し2ヶ所削 減及び事業費減	影響なし	●	
	土人形の里づくり事業	7	1,000㎡	7	1,000㎡	なし	—	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
一本木公園整備事業		一本木公園	900	900	平成12年度～平成22年度	平成12年度～平成22年度	計画どおり実施された	
地方道路交付金街路事業		中町下	3000	1897	平成15年度～平成22年度	平成15年度～平成21年度	計画よりも1年早く事業完了した	
全国都市再生モデル調査		中野市	6	6	平成18年度～平成18年度	平成18年度～平成18年度	計画どおり実施された	
中野陣屋・県庁記念館改修		中野陣屋・県庁記念館	11	9	平成21年度～平成22年度	平成21年度～平成22年度	計画どおり実施された	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	中心市街地歩行者減少率	%	-	-	4.2	H18	2.0	H23	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定 ●	7.3	事後評価	×	
指標2	放送による市情報の認知率	%	-	-	41.7	H17	60.0	H22	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定 ●	54	事後評価	△	
指標3	市街地通過交通通過時間	分	-	-	10.5	H18	9.0	H23	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定 ●	9	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	まちなか交流の家事業(H19)、中町線沿道空間整備事業(H21)、公衆トイレ改修事業(H22)、歩道整備H21~22)を実施したが、計測数値である減少率が従前よりも拡大したことから「×」とした。	
指標2	計測数値である認知率が改善したので「△」とした。音声告知放送の加入率が年2%上昇しているため、数年以内には目標値に達成すると考えている。	
指標3	事後評価の時点では工事が竣工していないため数値は見込み値である。工事は予定通り実施されており竣工すれば通過時間の短縮が図られ目標値の達成は可能と考えられる。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	中心市街地の通行量	台	全事業完了後の環状道路の通行量を推計し、その値をもって中心市街地の通行量を推計する。	---	---	36,607	H18	モニタリング			地区内で実施した道路改良事業の効果として通過交通の中心市街地への流入抑制が考えられる。これにより中心市街地における歩行者の安全性や快適な生活の確保また交通環境のよい街づくりの成果を表す指標としてふさわしいと考えられる。	指標1を補完して、快適な商業、生活活動の向上を説明する
								事後評価	確定	見込み ●		
その他の数値指標2	中心市街地におけるイベント数	回	平成18年度に中心市街地で行われたイベント数と平成22年度に中心市街地で行われたイベント数を比較し推計値とする。	---	---	6	H18	モニタリング			地区の整備に伴う効果として中心市街地でのイベント数の増加が見られる。これは中心市街地に人々が集い交流するための拠点の創造、連携強化さらには利活用の充実により、まちのにぎわいの再生を促進したことを表す指標としてふさわしいと考えられる。	指標1を補完して、まちのにぎわいの再生の成果を説明する
								事後評価	確定	見込み ●		
その他の数値指標3	音声告知放送の加入世帯数	戸	平成18年度～平成22年度の音声告知放送加入世帯数の変化の傾向から推計値を算出する。	---	---	4,697	H18	モニタリング			地区内の防災情報通信施設整備事業に伴う効果として音声告知放送加入世帯数の増加が見られる。これは地域情報化の推進により防災防犯情報の連絡体制が充実したことを表す指標としてふさわしいと考えられる。	指標2を補完して、防災情報をはじめとする行政情報のネットワークの向上を説明する
								事後評価	確定	見込み ●		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

歩道整備、中町線沿道空間整備、中野陣屋前広場の整備や公衆トイレ改修事業等が実施された結果、市民祭等の各種イベント時に中心市街地に人々が集い交流するためのより良い拠点が創出され、イベント参加者から高い評価を得た。また、イベントへの参加者も大幅に増加した。
 歩道整備については、段差解消を図った結果、車イスや杖を使って歩行する方、高齢者等にとってやさしい歩道が実現した。特に障害者団体から高い評価を得ることができた。
 商店会や地域のボランティア団体による景観向上意識が高まり街を華やかにし、にぎわいのあるまちづくりにつなげて行きたいという想いでイベント毎のデザインシールを光灯に貼ったり、市民祭時に灯籠を設置したり、鉢植えの設置や花植え、バラ等の植樹をしたりと活動が継続実施されている。
 音声告知放送には受信者を限定して放送する機能としてグループ放送があります。この機能により今までできなかった、区、学校、農協等の単位ごとに必要な情報をきめ細やかに提供ができるようになり、発信者、受信者双方の利便性が向上し評価された。また、屋外放送のみならず音声告知放送の加入世帯は屋内でも放送が聴けるようになった。放送の質が向上したという評価を得た。
 本交付金事業で整備された環状道路(吉田西条線、吉田西条線2)の利用者が増えることで、小中学校の通学路にある大型交差点(江部交差点)の交通量が減少することになる。これは渋滞緩和や歩行者の安全性が向上するといった効果がある。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中野中心商店街通行量調査報告書による モニタリング	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> 【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度10月 【実施結果】採用した指標は中野市商店会連合会により毎年度、数値が整理されているものでモニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。 	モニタリング同様に毎年度の中野中心商店街通行量調査報告書により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中野陣屋前広場活用検討委員会	予定どおり実施した	<p>平成20年度に中野陣屋前広場の活用方法について住民参加による検討を実施。</p> <p>市内各種団体を代表する委員16名とアドバイザー1名の構成により検討会を開催（7回）。</p> <p>市内高校生にアンケート調査を実施。</p> <p>上記検討内容を報告書としてまとめ、平成21年2月に市長へ提出。この報告書を踏まえ、中野陣屋前広場の整備を平成22年3月に都市再生整備計画に追加した。</p>	今後も地域住民と協力してまちづくりを進め、事業のスムーズな実施を図る。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
市道吉田西条線整備促進懇談会等	予定どおり実施した	<p>整備促進懇談会：平成15年度1回、平成16年度1回</p> <p>意見交換会：平成16年度1回</p> <p>地権者会：平成19年度2回</p> <p>吉田区総会：平成19年度1回</p> <p>懇談会や意見交換会を行い住民の理解を得ながら合意形成を図ったので、地元調整が円滑に進み事業がスムーズに実施できた。</p>	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
商店会や市民ボランティアによる景観向上活動	予定どおり実施した	<p>中町まちづくり協議会では中町線沿道においてイベント毎のデザインシールを光灯に貼りイベントムードを盛り上げたり市民祭時に灯籠を設置したりと活動が実施されている。さらに、中町まちづくり協議会、銀座会（商店会で作られた団体）及び華の樹（地域のボランティア団体）により中町線沿道やその関連道路等において花植えやバラ等の植樹、また、各種鉢植えの設置が実施された。団体による定期的な管理が行われた結果、本年度はバラのまち中野市を象徴する美しいバラの沿道が実現した。本事業がきっかけとなり地域関係者の景観向上意識がさらに高まり、街を華やかにし、にぎわいのあるまちづくりにつなげていきたいという想いで活動が継続実施されている。</p>	中町まちづくり協議会 銀座会 華の樹	団体やボランティアの主体的な活動とし、市は後方支援に徹する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課職員 (道路河川課、都市計画課、商工観光課、文化スポーツ振興課、環境課、政策情報課)	第1回：平成23年 6月6日 第2回：平成23年 7月1日 第3回：平成23年 7月20日 第4回：平成23年 9月8日	政策情報課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
指標名		市街地通過交通通過時間		中心市街地の通行量		中心市街地におけるイベント数		音声告知放送の加入世帯数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(道路改良)吉田西条線	◎	市街地をささむ2地点間の通過時間を短縮するための環状道路(吉田西条線、吉田西条線2)は地元住民との懇談会や意見交換会を実施したことにより計画通り完成に至った。これにより交通環境の良い市街地が実現した。	◎	環状道路(吉田西条線、吉田西条線2)の完成により市街地通過交通を環状道路に誘導することができる。これにより中心市街地の交通量が減少し交通渋滞の緩和や交通安全上の問題を改善する。とりわけ、中心市街地は小中学生や高校生の通学路であり、また、商店街でもあるため効果は大きい。	—	地方道路交付金街路事業、中町線沿道空間整備及び中野陣屋前広場の整備等を行ったことにより中心市街地に人々が集い交流するための拠点が創出され中心市街地で行われるイベントが4つ増加した。中心市街地の魅力と賑わいの向上につながった。	—	情報通信網整備が完了したこと、また、各世帯への引き込み線工事についても市が負担した(H19~H20)ことにより音声告知放送の加入世帯が本事業実施前の2倍以上となっており、さらに加入世帯は増加している。これにより、安全・安心のまちづくりの体制が促進された。
	(道路舗装)横町菅代線	○		○		—			
	(道路舗装)南宮線	○		○		—			
	(道路舗装)吉田西条線2	◎		◎		—			
	(歩道整備)南宮線	—		—		○			
	(歩道整備)三好町線西	—		—		○			
	(歩道整備)中野2号線	—		—		○			
	(歩道整備)中町線	—		—		○			
提案事業	(地域生活基盤施設)防災情報通信施設3事業	—	—	◎	◎	—	◎		
	(高質空間形成施設)中町線沿道空間整備	—	—	—	◎	—	—		
	(既存建造物活用事業)まちなか交流の家	—	—	—	○	—	—		
	(地域創造支援事業)防災情報基盤整備事業	—	—	—	○	◎	—		
	(地域創造支援事業)旧中野小学校西舎活用事業	—	—	—	○	—	—		
関連事業	(地域創造支援事業)中野陣屋・県庁記念館改修	—	—	—	○	—	—		
	(地域創造支援事業)公衆トイレ改修事業	—	—	—	○	—	—		
	(地域創造支援事業)土人形の里づくり事業	—	—	—	◎	—	—		
	事後評価	—	—	—	—	—	—		
	一本木公園整備事業	—	—	—	○	—	—		
関連事業	地方道路交付金街路事業	—	—	—	◎	—	—		
	全国都市再生モデル調査	—	—	—	○	—	—		
	中野陣屋・県庁記念館改修	—	—	—	○	—	—		

※指標改善への貢献度
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標3	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3
今後の活用	今後も市民の意見を聞いて道路整備・維持管理等に勤め、交通環境の良い市街地づくりを図る。	今後も市民の意見を聞いて道路整備・維持管理等に勤め、交通環境の良い市街地づくりを図り、中心市街地の賑わいの向上につなげる。	今後も市民の意見を聞いて、賑わいと魅力のある中心市街地になるようまちづくりを推進する。また、本計画で整備した施設の民間団体による有効活用を促進する。	加入者負担金の軽減策を講じて、加入率のさらなる増加を図る。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2		
指標名		中心市街地歩行者減少率			放送による市情報の認知率		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(道路改良)吉田西条線	—	買い物客は郊外の大型店舗に集客された、また、中野高校と中野実業高校の統廃合により生徒が減少した、などの原因により中心市街地の歩行者数の減少に歯止めがかからなかった。しかしながら、地方道路交付金街路事業、中町線沿道空間整備、歩道整備及び中野陣屋前広場の整備等の取り組みにより中心市街地の魅力や機能は充実した。とりわけ、歩道整備については段差解消や幅員の拡幅により安全・安心な歩道が実現した。	III	—	認知度は向上したが目標をわずかに達成しなかった。しかしながら、音声告知放送の加入率は情報通信網整備前と比較すると2倍以上に増加しており、安全・安心なまちづくりは促進された。また、屋外放送のみならず音声告知放送の加入世帯は屋内でも放送が聴けるようになり、放送の質が向上した。	III
	(道路舗装)横町普代線	—					
	(道路舗装)南宮線	—					
	(道路舗装)吉田西条線2	—					
	(歩道整備)南宮線	△					
	(歩道整備)三好町線西	△					
	(歩道整備)中野2号線	△					
	(歩道整備)中町線	△					
	(地域生活基盤施設)防災情報通信施設3事業	△					
	(高質空間形成施設)中町線沿道空間整備	△					
提案事業	(既存建造物活用事業)まちなか交流の家	△			—		
	(地域創造支援事業)防災情報基盤整備事業	—			△		
	(地域創造支援事業)旧中野小学校西舎活用事業	—			—		
	(地域創造支援事業)陣屋県庁記念館改修	△			—		
	(地域創造支援事業)公衆トイレ改修事業	△			—		
関連事業	(地域創造支援事業)土人形の里づくり事業	—			—		
	一本木公園整備事業	—			—		
	地方道路交付金街路事業	△			—		
	全国都市再生モデル調査	△			—		
	陣屋県庁記念館改修	△			—		

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>まだ整備されていない歩道の整備を実施し、歩行者にやさしいまちづくりを図る。</p> <p>歩道整備の実施に伴い回遊性が向上した。冬季間についても歩道の除雪対応を図り安全性を確保する。</p> <p>商店街や商工会議所と連携を強化し賑わいのある中心市街地づくりを図る。</p> <p>中野陣屋前広場が整備されたことにより、中心市街地における交流拠点が創出された。今後は民間団体による有効活用の促進を図る。</p>	<p>加入者負担金の軽減策を講じて音声告知放送の加入世帯の増加を図る。また、既加入世帯の方に利用していただけるよう、放送内容のさらなる充実を図る。</p>
------------------	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課職員 (道路河川課、都市計画課、商工観光課、文化スポーツ振興課、環境課、政策情報課)	第1回:平成23年 6月6日 第2回:平成23年 7月1日 第3回:平成23年 7月20日 第4回:平成23年 9月8日	政策情報課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地に人々が集い交流するための拠点の創出、連携強化、既存施設の利活用の充実により、まちのにぎわいの再生を促進	中町線沿道空間整備や陣屋前広場の整備等により人々が集い交流するための拠点の創出ができた。また、既存施設の利活用によりまちなか交流の家が整備された。このような事業実施の効果により中心市街地で行われるイベント数の増加へと繋がった。		災害発生時の避難者収容施設の確保のため老朽化した公共施設の耐震改修や小学校の屋内運動場等の耐震化が必要である。また災害時の避難所や復旧の拠点となる防災広場の整備が必要である。生活や災害時の動線空間として市街地の歩道整備は本計画により推進されたが、歩道の 신설や段差解消が必要な箇所がまだ残されている。
地域情報化の推進により防災・防犯情報の連絡体制を充実	情報通信網整備が完了した。これに伴い音声告知放送の加入世帯が整備前と比較し2倍以上となった。防災・防犯情報の連絡体制の充実が図られた。		
災害時の避難施設として公共施設の耐震化、機能強化	中野市民体育館の耐震改修が実施され災害時の避難施設としての機能が強化された。	市民体育館以外の公共施設についても同様に耐震改修を実施し、災害時の避難施設を強化したい。	
生活や災害時の動線・空間として市街地の歩道整備が必要	南宮線、三好町線西、中野2号線、中町線の歩道整備が実施された。	歩道の段差解消や災害時の避難施設へのアクセス性の向上を図るため、さらなる道路・歩道整備が必要である。	
通過交通が中心市街地に流入しないよう、環状道路を整備	吉田西条線、吉田西条線2が整備され中心市街地をはさむ2地点間の通過時間の短縮が図られた。これにより中心市街地の通過交通を環状線へ誘導することができる。	幹線道路の整備は進んだが、住宅地から幹線道路へのアクセス道路の整備を今後進める必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	中心市街地におけるイベント数の増加	主たる基盤整備(ハード)はほぼ達成したので、今後は活用(ソフト)の問題。	現在行われているイベントの継続的な開催
	音声告知放送の加入世帯の増加	主たる基盤整備(ハード)はほぼ達成したので、今後はさらに加入世帯を増加させる施策が必要。	加入者負担の軽減や放送内容の充実等の対応策が必要。
	避難施設の耐震改修による機能強化	避難施設の耐震改修が実施されたので、維持管理に努める。	維持管理業務
	市街地の歩道整備	歩道整備が実施されたので、維持管理に努める。	維持管理業務
	環状線の整備	環状道路が整備されたので、維持管理に努める。	維持管理業務

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	公共施設の耐震改修・耐震化や防災施設の整備	老朽化した公共施設の耐震改修や小学校の屋内運動場の耐震化、また、防災広場の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の耐震改修工事 小学校の屋内運動場の耐震化 耐震性防火水槽工事 災害時の物資輸送拠点の整備 防災広場の整備
	歩道の段差解消	お年寄り、子どもまた障がいのある方に安全で、安心して利用できる歩道にするために歩道整備や段差解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の整備 歩道段差解消工事
避難施設へのアクセス道路及び歩道整備	避難施設へのアクセスがスムーズにできるよう道路及び歩道整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 道路拡幅工事 歩道の整備 	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

残された課題はあるものの、中心市街地の基盤整備については、本計画により従前と比較し大きく進展した。現在検討している第2期中野市地区都市再生整備計画の課題としては、災害に強いまちづくりや、人々が中心市街地に集える空間づくり、また、きめ細かな道路・歩道整備が必要と考えている。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	中心市街地歩行者減少率	%	4.2	H18	2.0	H23	確定	7.3	×	あり	→	平成24年10月	平成24年10月に公表予定である中野市中心商店街通行量調査報告書を用い確定値を求める。	
							見込み ●			なし ●				
指標2	放送による市情報の認知率	%	41.7	H17	60.0	H22	確定 ●	54.0	△	あり	→			
							見込み ●			なし ●				
指標3	市街地通過交通通過時間	分	10.5	H18	9.0	H23	確定	9	○	あり	→	平成24年6月	吉田西条線の竣工後に実測により通過時間測定し、確定値を求める。	
							見込み ●			なし				
その他の数値指標1	中心市街地の通行量	台	36,607	H18	/	/	確定	35,437	/	/	→	平成24年10月	平成24年10月に公表予定である中野市中心商店街通行量調査の結果を用い、確定値とする。	
							見込み ●							
その他の数値指標2	中心市街地におけるイベント数	回	6	H18	/	/	確定	10	/	/	→	平成24年4月	平成23年度に中心市街地で行われたイベント数を把握し、平成18年度のイベント数と比較し確定値とする。	
							見込み ●							
その他の数値指標	音声告知放送の加入世帯数	戸	4,697	H18	/	/	確定	9,751	/	/	→	平成24年4月	平成24年3月末時点における音声告知放送加入世帯数を把握する。	
							見込み ●							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	一部の指標でモニタリングを実施したことにより交付期間中、毎年度状況を確認することができた。	毎年度データが得られる指標を設定するとモニタリングが容易になる。途中の計測可否も考慮のうえ、指標を設定したほうがよい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		指標が達成されるよう、数値目標の設定については経済情勢や社会情勢等の影響を考慮し厳しく設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	指標(数値目標)の達成のために多面的な事業計画を策定したが、経済情勢や社会情勢の影響で計画実行できない事業が生じたり、目標達成ができないものがあった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	地元住民との懇談会や意見交換会を重ねた結果、事業がスムーズに実施された。本計画実施がきっかけとなり新たなイベントの創出や地域の団体等による景観向上活動が生まれた。	まちづくり活動には、地域住民の参加が不可欠であり、地元住民や各種団体との連携や協働を十分行うことでより効果的なまちづくり活動が可能となる。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	庁内の横断的な組織で本計画の成果について検討した。	引き続き、庁内の横断的組織の打ち合わせ会議で段階的に検討し、今後も事業計画や事業実施を行う。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

<p>・今後の交付金の活用予定 平成24年度から実施予定の第2期中野市地区都市再生整備計画において活用予定。本計画で行った災害に強いまちづくりや人々が中心市街地集える空間づくりのさらなる推進が必要である。</p>
--

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成23年11月7日～11月18日	平成23年11月7日～11月18日	担当課へ意見書を持参、郵送、FAX、電子メールにより提出	政策情報課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成23年11月5日発行 広報なかの11月号 No.80	平成23年11月7日～11月18日		
説明会・ワークショップ	---	---			
その他	政策情報課で閲覧	平成23年11月7日～11月18日	平成23年11月7日～11月18日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	柳沢 吉保 長野工業高等専門学校 教授(工学博士)	平成23年12月15日	政策情報課	中野市社会資本整備総合交付金評価委員会要綱	独自に設置
その他の委員	森田 敏男 中野市区長 副会長 小野 貞 中野市身体障害者福祉協会 副会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書の内容は適正であることが確認された。
	成果の評価	評価結果については了承された。 まちのにぎわいの再生を促進したことを表す指標として、中心市街地におけるイベント数を取り上げたが、集客数の増加が目的でイベントはその手段であるため指標をイベント数だけではなく、イベント参加者数や経済効果などにした方がいいのではないか。また、指標1は単に歩行者数について評価しているが、どのくらい回遊しているか、あるいは滞在時間はどのくらいか、といった指標も取り入れてほしい。
	実施過程の評価	実施過程については適正であると確認された。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理は適正であると確認された。 目標未達成の指標に係る事業についても、数値目標は未達成ではあるが、その事業実施による効果は明らかに出ている。数値目標を達成できなかった指標に係る効果発現要因の整理の中で効果のあった事業については△ではなく○にしたい。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表の妥当性は確認された。 住民からの意見がなかったことを受けて、もっと住民を巻き込むような方法を考えて方がいい。 広報誌に記事があったが、見落としてしまった。住民側もまちづくりに興味がないと気がつかない。大きな箱物を作るときは意見が寄せられるが、まちづくりのような地道な息の長い事業には意見が出にくい。
	その他	数値目標の達成も重要だが、達成しなかった指標に係る事業についても実施したことにより住民生活の質が向上している。このことについてももっと評価した方がいいのではないか。まちづくりに対する住民の意見をいかに収集するかが今後の課題の一つではないか。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは適正に進められたと確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	歩道整備により段差が解消され、歩くスペースも確保されスムーズに歩けるようになった。北信病院周辺の歩道についても同様に歩道整備を進めてほしい。また、雪が積もったときの除雪の対応を充実させて安全性の確保をお願いしたい。点字ブロックを使って歩く方から街路樹が頭に当たって歩行の支障になっているという話を聞いた。街路樹の管理をお願いしたい。信州中野駅の南側は夜間の街灯が不十分で危ない気がする。まちの中を回遊するための案内板がないので設置してほしい。 現在、市役所と市民会館が隣接しており、駐車場が十分でない。駐車場を十分確保できるように市役所と市民会館は別の場所にしてほしい。また、市民会館は災害時の避難施設になる場所ですから、そのことも考慮に入れてまちづくりを進めてほしい。 視覚障害者にとって音声告知放送は情報を得る手段として便利である。次は聴覚障害者が情報を得るために便利なCATVの番組を作成してほしい。
	フォローアップ	フォローアップについては妥当であると認められた。
	その他	まちのにぎわいを再生するためには、行政で行っているハード・ソフト事業に商店街や地域住民が連携していくことが必要。特に地域住民の中からまちづくりをリードするキーパーソンがでてくることが求められる。 まちづくりは地域住民の熱意がないとうまくいかない。地域住民や商店街等で組織する協議会と行政が情報を共有し、話し合いを持ちながらアイデアを出し合って、まちの活性化を進めていくことが必要。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	市役所庁舎の移転について現在検討中であるが、この結論によってまちづくりに大きな影響が出ると思われる。	